

〈連載(345)〉

五島列島の離島航路船を楽しむ



大阪府立大学 名誉教授
池田 良穂

現在編集集中の「日本の旅客船Ⅲ」(日本クルーズ&フェリー学会から7月に発行予定)では、国内の短距離航路で活躍する客船の姿を、網羅的に記録に残すことにしており、その姿を求めて日本中を駆け回っている。

この6月には、五島列島を南北にかけて縦断して、列島各地の離島航路客船を追った。離島航路は、島の過疎化の影響で利用客が減り、定期船の民間運航は経営的に次第に難しくなり、公設民営化(船は公的に建造して、民間が運航)等の試みも進んでいるが、たとえば市営や町営であってもいかんともしがたい状況のところもあるようだ。五島列島でもそうした航路に出会った。

福江島の南海上に浮かぶ黒島への航路は五島市営ではあるが、市としては船というハードはもたず、海上タクシー会社と連携して、週一便のみ「市営船としての定期運航」を行ってもらい、あとはオンデマンド運航で、予約したときのみ市営船料金で移動ができるシステムになっていた。島の定住者は、今では1人だけという。したがって利用客は、この住人とその関係者か、釣り人か、かつて住んでいて家が残ってい

る人とその家族ということになる。同様に無人化に直面する離島も少なくない。観光地等として復活させるなどの対策が急務となっているが、現実にはなかなか難しい。

さて、今回の旅行の主目的の1つは、福江島から奈留島、若松島、中通島を結ぶ航路に登場した新造カーフェリー「オーシャン」に会うことだった。運航するのは五島旅客船で、大村湾や博多湾で高速旅客船を運航する安田産業汽船の系列会社で、五島列島の島内航路にカーフェリーと高速旅客船を運航している。この「オーシャン」は、「フェリーオーシャン」の代替船で、長崎の井筒造船所で建造されたばかり。福江港から奈留島までわずか45分の航海で、料金は800円だった。

乗船してみて驚いたのは、とても離島航路船とは思えぬ内装のセンスの良さだった。乗船してすぐのエントランスの壁には同船の側面図が大きなパネルとなって飾られており、2階に登る階段には旧船「フェリーオーシャン」の模型が展示されていた。いずれもオーナーの船に対する愛情が感じら

れて嬉しかった。2階は見晴らしの良いラウンジ風になっており、後部には絨毯敷き

のスペースも設けられ、幼児用のプレイスペースもあった。



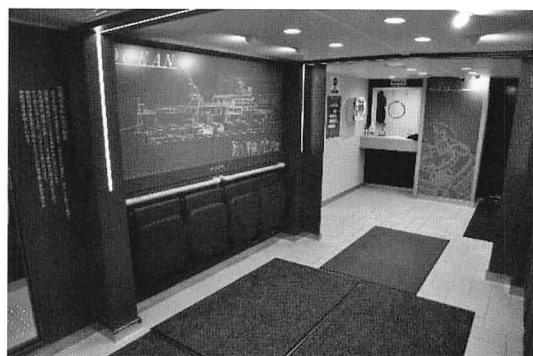
福江港を出港する「オーシャン」



福江港で荷役中の「オーシャン」



階段には前船「フェリーオーシャン」の模型が飾られていた



オーシャンのエントランスには、同船の側面図が飾られていた



見晴らしの良い客室はハイグレード仕様で、とても離島航路船とは思えない

45分の航海で奈留島に到着した。この島では、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の1つとして認定されている木造教会「江上天主堂」が有名だ。

また、奈留島港のすぐ沖に浮かぶ前島への市営船「喜代丸」と初対面を果たすことができた。航海時間がわずか7分という渡船だが、離島の生活を守る大事な船だ。

奈留島から福江港への帰りには、高速旅客船「ニューたいよう」に乗船した。2000年に佐世保の沖新船舶工業で建造されたアルミ合金船で、航海速力は24ノットで、なかなか美しい船姿の高速船だ。福江までの航海時間は「オーシャン」より15分短い30分だった。



奈留島から福江港に戻る時に乗船した高速旅客船「ニューたいよう」

福江島で2泊して、その周辺の離島航路客船をすべて撮影して、朝10時に出港する野母商船の「太古」に乗船した。同船は、白杵造船で建造され、2014年のシップ・オブ・ザ・イヤー（日本船舶海洋工学会）の小型客船部門賞に輝いた名船だ。毎日深夜に博多港を出港して、五島列島の島々に寄りながら、朝の8時には福江に到着。折り返し、10時に出港して、中通島の青方港や小値賀島（おじかじま）に寄港して、夕刻には博多

に戻るというスケジュールで運航されている。同船の航海では、狭い若松瀬戸の通過が感動的だ。



福江港から小値賀島へは「太古」に乗船。若松水道を通過する航海はまさに絶景だ

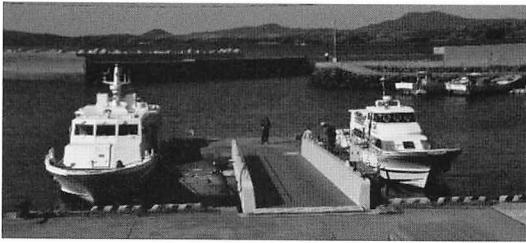
午後1時に、「太古」は小値賀島に到着し、ここで下船した。今回の旅行の2つ目の目的は、小値賀島周辺の3隻の公営渡船の撮影をすることで、1隻は小値賀島町営船「はまゆう」で、太古を下船した小値賀港の近くの栈橋から、野崎島・六島を廻る東航路と、大島に行く西航路に就航する。



小値賀町営船「はまゆう」

残る2隻は、島の北に位置する柳漁港からでる町営船「さいかい」と、佐世保市営船「みつしま」。「さいかい」は小値賀島の北に浮かぶ納島への町営渡船で、「みつしま」はさらに北の宇久島（佐世保市）とを結ぶ市営

渡船だ。市町村の合併時に、宇久島は佐世保市に入ったが、小値賀島は独自路線で行く道を選んだため、こうして柳漁港には、市営船と町営船が運航されることになったとのこと。いずれも筆者にとっては初対面の船たちであった。



小値賀島の柳港に並ぶ町営船「さいかい」(右)と市営船「みつしま」

こうしてコロナ禍中ではあるが、3泊4日の五島列島の撮影旅行を無事終わらせることができた。利用した船も宿もコロナ禍で客が激減し疲弊しており、いずれも温かく迎えてもらうことができた。

行政やマスコミは「人出が多いこと」に悪のレッテルを張り、不要不急の外出自粛を迫り、三密回避を叫ぶが、これが観光業を疲弊させている。感染症拡大の根本的な対策は、それぞれの個人が体内にウィルスを取り込まないことであって、外出自粛も三密回避も、そのための手段の1つに過ぎない。

ウィルスを持つ人から飛沫を、口、鼻、目の粘膜に直接浴びないこと、間接的に飛沫に触れた手で、口、鼻、目の粘膜を触らないこと。この直接および間接感染の2つの防御対策で、感染は完全に抑えることができる。前者は、他人と対面して話す時には必ず距離を取り、マスクと眼鏡をつける、後者は、手を口等に持っていくときには毎回必ず手の消毒をすることが対策となる。この2つの対策の徹底こそ広く周知してほしいと感じるのは筆者だけであろうか。マスク、眼鏡、携帯用消毒スプレーが、旅行時の筆者の必須携帯アイテムとなっている。

性能・実績で先端をゆく

もやい索発射器は

コスモ・GV, GE型

(バルブ式で操作は簡単)

製造元／みずの機工有限会社

〒650-0024 神戸市中央区海岸通4丁目3の20 甲南ビル
TEL (078) 341-7977 FAX (078) 341-7978

MODEL・コスモGE型